

結成の経過と発足趣旨

上佐一心会のルーツは、大正6（1917）年に設立した「船佐青年団西支部上佐西組」に求めることができる。

この会は当初上佐の後側・門田に居住する15歳以上25歳以下の青年男女によって組織され、会員の修養を主たる目的として活動してきたが、その後大正11（1922）年、「船佐青年団上佐一心会」と改称、会則も改正して、名実ともに地域振興の中核として活発な活動を展開したのである。

大正14（1925）年には別組織として「一心消防組」を結成、地域の防災活動にも積極的に取り組んでいった。

以後昭和11（1936）年ごろまでは活動も盛んであったが、日中戦争の勃発とともに戦時体制が強化され、多くの会員が兵役につくなど悪条件が重なって、自治的な活動は不可能となった。

戦前の「一心会」の活動で顕著なのは各地の大会で活躍した剣道と盆踊りであった。中でも盆踊りは昭和の初期から県内の大会で優秀な成績をおさめ「一心会」の名声を高めてきたが、その名が再び甦ったのはやはり盆踊りにおいてであった。

戦後まもなく、その伝統を受け継いで「一心会盆踊りクラブ」を結成、戦前におとらぬ活躍を展開してきたのである。しかしその活動も高度経済成長期の昭和42（1967）年～昭和43（1968）年ごろを境に各地の盆踊り大会も無くなり、「一心会」の名も再び消え去る運命にさらされることになった。

その後昭和54（1979）年ごろから、高宮町内各地域において自治振興会組織の発足など地域づくりが活発化し、その中で上佐地域の青壮年層を中心にコミュニティづくりが叫ばれるようになった。これを受け有志による準備会を結成し、昭和54（1979）年「上佐一心会」を組織した。この時期の「上佐一心会」は全戸加入によるものではなく、45歳までの地域住民で組織されており、会員数は85名足らずだった。

しかし、当時の若者のバイタリティあふれる行動と地域を想う熱意は、徐々に上佐地域全体に波及していき、ついに昭和59（1984）年8月には、組織改革によって全戸加入による「上佐一心会」づくりを成し遂げていくのである。



昭和17（1942）年広島護国神社で盆踊り奉納



昭和30年代後半広島市盆踊り大会参加